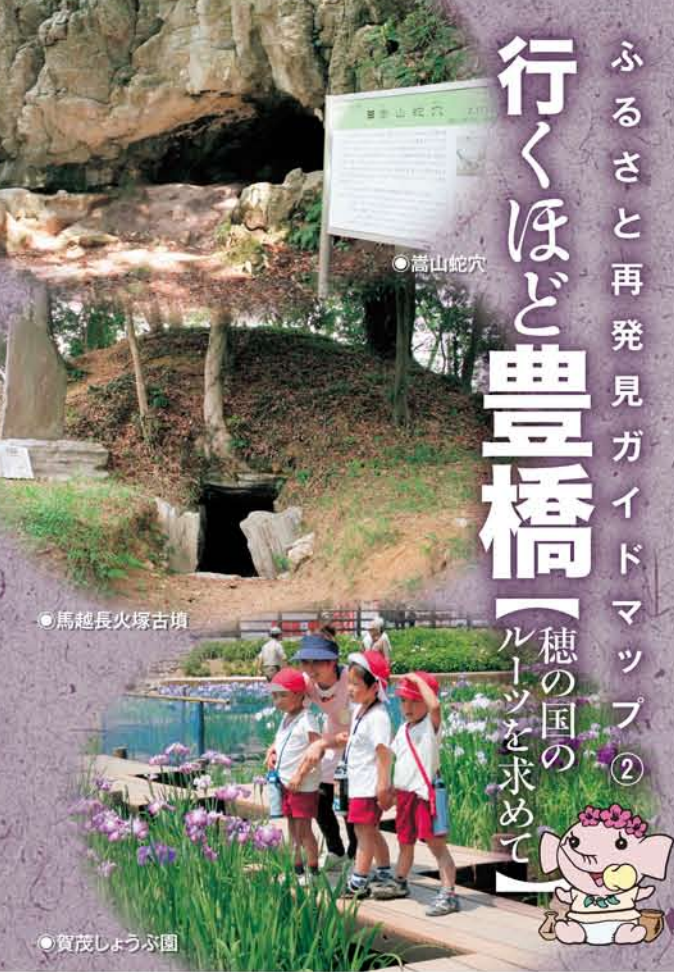


行くほど豊橋

ふるさと再発見ガイドマップ②

穂の国の
ルーツを求めて



馬越長火塚古墳

賀茂しょうぶ園

豊橋市では、市民の皆さんに「ふるさと再発見の喜び」を感じていただき、また「訪れたい魅力的なまち」豊橋を全国に発信するため、シリーズ「ふるさと再発見」を販売しています。

- ふるさと再発見ガイドブック「知るほど豊橋」(価格:各300円)
 - その一「考古な街「トヨハシ」を知る」
 - その二「一筆啓上、豊橋筆にて候。」
 - その三「流れ悠々四十年。豊川用水」
 - その四「手筒花火を揚げる町に住む」
 - その五「のんほいパークの達人になる。」
 - その六「豊橋駅発見傳 元祖駅デハは、誕生から六十年になる。」
 - その七「東海道の東と西を繋ぐ「とよはし」。」
 - その八「市電と共に、マイペース・マイ豊橋」

- ふるさと再発見ガイド ビジュアルBOX「知るほど豊橋」(価格:1,500円)

「ふるさと再発見ガイドブック 知るほど豊橋」のその一〜五と各巻の魅力を凝縮したダイナミックな映像を収録したDVD「見るほど豊橋」をボックス・セットで販売中!

「ふるさと再発見」シリーズ販売場所

- 豊橋市役所じょうほうひろば(東館1階) ● 中央図書館(豊橋市羽根井町)
- 美術博物館(豊橋公園内) ● 二川宿本陣資料館(豊橋市二川町字中町)

書店名	住所	電話番号
豊川堂(本支店)	豊橋市呉服町40(本店住所)	☎0532-54-6688
精文館書店(本支店)	豊橋市広小路一丁目6(本店住所)	☎0532-54-2345
高英堂書店	豊橋市松葉町二丁目41	☎0532-52-4600
耕文堂	豊橋市広小路三丁目47	☎0532-52-5790

※郵送での販売は、豊川堂本店(☎0532-54-6688)に直接お問い合わせください。

発行 豊橋市役所広報広聴課
平成24年3月
〒440-8501 豊橋市今橋町1番地(☎0532-51-2164)

県内最大の石室

馬越長火塚古墳

前方後円墳/全長約70m/後円部の高さ6m
宮西古墳から西へ、柿畑ののどかな農道を進むと、前方にこんもりとした森がみえてきます。ここが馬越長火塚古墳です。この古墳は6世紀末頃の前方後円墳で全長約70m、後円部の高さは6mあります。横穴式石室の奥行きも17.4mあり、巨大な一枚岩の奥壁や天井の石に圧倒されます。古墳の規模からも強大な権力を持ち、東三河一体を治めた「穂国造」が葬られたと考えられています。

■ 観察のポイント

① 古墳の形や大きさを見る
古墳のどちらが前方部でしょうか。また人を葬った「石室」はどこにあるでしょうか。まずは全体を見渡してみましょう。



馬越長火塚古墳全景

② 古墳の上を歩く
どこが高く、どこが低いのか、歩かないとよく分からない部分もあります。一番高い後円部から古墳全体を見渡すと、形がよく分かります。古墳の表面をよく見ると、無数の石が転がっています。これは表面を石で覆って飾った「葺石」の一部です。



古墳の上を歩く

③ 横穴式石室に入ってみる
後円部の側面には、大きな石室が口を開けています。ここが死者を収めた横穴式石室です。暗い石室には、巨大な石で組み上げられた奥壁や天井が見えます。また、石室は壁に柱を立てて、3つの部屋に分けられています。薄暗い石室は、まさしく死者の世界・黄泉の国です。死者は、ここにきらびやかな副葬品とともに葬られたのです。



石室内の様子

④ 古代史にロマンを求める
葬られた人物が誰なのかは明確に分かっていませんが、黄金で飾られた副葬品から地位の高い人物と考えられています。みなさんも古代史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

16基の古墳が並ぶ馬越北山古墳群の1つ

宮西古墳

円墳/直径12m/高さ2m
和田辻交差点から新城方面へしばらく進むと、右手に宮西古墳の案内標識があり、右折してしばらく進むと馬越集会所の先に宮西古墳があります。この古墳は、6世紀末頃の円墳で直径は12m、高さは2mあります。被葬者は村の有力者で、馬越長火塚古墳に葬られた人物の家臣ではないかと考えられています。

■ 観察のポイント

古墳のまわりを見渡してみましょう。古墳背後の森の中に、別の古墳がいくつかあるのがわかりますか? ここには12基の古墳があります。「宮西古墳」は墳丘が高く、まわりの古墳とくらべると、ずいぶん目立ちます。古墳群の中でも、中心となる人物の墓であることが想像できます。また、道路沿いには横穴式石室の入口があり、鉄の柵から中をのぞくと、きれいに積み上げられた石材を見ることができます。



宮西古墳

豊川下流域を支配した権力者の墓

権現山古墳群

前方後円墳(2基)
豊橋市と豊川市との市境、貯水タンクのある権現山の尾根上に権現山古墳群があります。権現山には3世紀後半~4世紀に造られた、全長30m以上、後円部の高さが3m以上の2基の前方後円墳があります。

■ 観察のポイント

現在は山の上に木が繁茂していますが、本来は豊川の下流域から三河湾までを広く望むことができるすばらしい立地です。説明看板の立っているところが2号墳です。貯水タンクのフェンスに沿って小道を奥へ進んでみましょう。短い前方部が古墳の古さを象徴しています。

1号墳は、さらに尾根上を奥へと進んだところにあります。小さな前方後円墳ですが、形は大変よくわかります。墳丘の上に転がっている石に注意してください。角が取れた丸い石です。豊川の河原にあった石をここまで運び上げて、「葺石」にしたのです。前方部の前には、広場が設けられています。ここで葬儀のためのマツリが盛大に行われたのでしょうか。



権現山古墳群

賀茂しょうぶ園

東三河では有数の花しょうぶが咲き乱れる賀茂しょうぶ園には、江戸系・肥後系・伊勢系の約300種3万7,000株が植えられています。毎年5月末~6月には初夏を告げる「花しょうぶまつり」が開催され、多くの観光客でにぎわいます。



賀茂しょうぶ園

高山蛇穴遺跡

豊橋最古の縄文遺跡で、標高140mほどの山腹にあり、洞窟遺跡となっています。洞窟の入口は高さ1.3mで、内部は意外と広く、現在では約70m奥まで入ることができます。昭和16~22年に4回行われた発掘調査では、入口付近を中心にして人々が生活した痕跡や、約1万年前の押型土器、獣骨や貝殻なども見つかっています。



蛇穴の中の様子



高山蛇穴入口

姫街道

正式には本坂通(道)。東海道の見付(磐田市)から御油(豊川市)までの脇街道です。「旧い」という意味の「ひね」という言葉に、新居関所を避けた女性達のイメージを重ねて「姫街道」の俗称が生まれたという説があります。旧嵩山宿や井原の一里塚などに、昔の面影が残っています。



姫街道の碑